

平成26年の新年を迎えて

出雲市長 長岡秀人

新年、明けましておめでとうございます。
 昨年は、多くの市民の皆さまにご信任いただき、2期目の市政を担わせていただくこととなりました。出雲市はさまざまな課題が山積していますが、とりわけ厳しい財政状況を乗り越えるために、改めて行政の果たすべき役割とは何かを考え、着実に行財政改革を進めていかなければならないと決意を新たにしているところです。

さて、昨年60年ぶりに執り行われた出雲大社本殿遷座祭以降の、予想を上回るほど多くの観光・参拝客は、まちの賑わい創出や地域経済に大きな効果をもたらし、改めて出雲大社に対する全国の関心度の高さを認識させられたところです。

本年は、これまでの取組によって全国に認知されてきた出雲のブランド力を活かし、「出雲らしさ」、「出雲ならではの文化をより強力に発信するとともに、観光客に快適な出雲の旅を提供するための「おもてなし」の仕掛けづくりを進め、より魅力的な観光地を目指してまいります。

安全安心なまちづくりということでは、斐伊川放水路が、計画発表されてから38年の歳月を経て昨年6月に竣工しました。昨年9月の大雨では、斐伊川の尾原ダム、神戸川の志津見ダム、そして放水路も合わせて運用され、これらの効果で斐伊川の下流部では水位の上昇が抑えられるなど、放水路の竣工により、出雲市は一段と水害に強い街となりました。

佐田・多伎・湖陵・出雲南部地域で進めていたデジタル式防災行政無線の整備も完了し、防災情報を迅速かつ確実に伝達することができるようになりました。今後は、平田地域、大社地域及び出雲地域平野部の整備を進めてまいります。

福島原発の事故以来、最重要課題となっている原子力発電所の安全対策については、引き続き立地自治体並みの「原子力安全協定」締結に向けての要求を行い、市民の皆さまの安心安全を確保してまいります。

また、昨年、本市出身のシンガーソングライター竹内まりやさんから、故郷への思いを込めて作っていただいた楽曲「愛しきわが出雲」をご提供いただきました。出雲の良さをPRする曲として、皆さまにも積極的に活用していただきたいと思っています。

平成26年は午年（うま）です。馬のように颯爽と力強く、スピード感をもって、今なすべきことをしっかりと実行し、本市の総合振興計画『出雲未来図』に掲げる「定住人口キープ17万人プロジェクト」に重点的に取り組み、本市に住み続けたい、住んでみたいと思っていただけのような魅力ある出雲市の実現をめざし、全力を尽くしてまいります。

結びに、新しい年が皆さまにとりまして、健やかで実り多い年でありますようご祈念申しあげ、新年のごあいさついたします。

